

今シーズン、8年振りに現役復帰をするために田久保賢植選手や坂間悠希選手と同じ、アルパイン・カウボーイズに練習生として参加していた清水広貴選手がメッセージを届けてくれました！

- ・清水広貴選手のコメント

『僕は2004年にオーストラリアから帰国をして、これまでにトータルで20回以上のトライアウトを海外で受けてきましたが、目指していたメジャーリーグに到達しないとその当時、自らの肌で感じました。そしてそこに届かなかった理由は※【姿勢】だと思いました。それを獲得する為に3年という時間を決めて、勉強してきました。

しかし、とても3年で得られるような簡単な事ではなく、とても奥の深いものでした。一度は諦めてその学んだ事を生かして、治療の道へ進む事にしました。

更に勉強を重ねて、医療に関わって仕事をして2年。治療というものを仕事にしていて、人の身体について色々と考えてきたわけだけれども、今まで自分が追い求めてきた姿勢というものをやはり自分の体で証明しなくては、これ以上前には進めないと思ったのでそれを確かめに行こうと決断しました。

アメリカに来た理由は、特にアメリカである必要はなかったんです。そこにチャンスがあると聞いたので選んだという単純な理由でした。ですが、実際にアメリカに来てみて、本場のアメリカの野球をグラウンドで一緒にプレーできて本当に良かつ

たと思っています。

何度もトライしてきた中で、アメリカのグラウンドに立つ事がこれまでに叶わなかつたので、その意味でもアメリカの野球をグラウンドで経験できたのは良かったと思っています。

アルパインのシーズンが終わりましたが、これからまた別の場所へ移動します。

どうなるかわかりませんが、選手としてだけでなく、選手達の身体のケアに関わる事が出来たら治療家としても勉強になるので、内容の濃い時間を過ごす事が出来そうです。残りの時間で引き続き、自分が追い求めているものを手に入れる為に、さらには再びグラウンドに立てるように頑張っていきたいです。』

※清水広貴選手の求める姿勢とは・・・

「臍下丹田に気が満ちている状態」一言で言えばそんな感じ。下腹部の一点に重さを感じるというか力が入っているというか、骨盤が前傾して下腹部が斜め下に突き出すから重心が下がる。背骨はやや後ろに反る感じになるから背中の筋肉は緩む。そうなれば例えばピッチング動作のコッキングアップ時に自然と肘が高く上がるとか、バッティングでテイクバックが楽にとれるとか、意識しなくとも合理的な動きができるようになる。逆に言えば、姿勢が決まっていなければ、どんなに頑張っても力はボールに伝わらない。だから、まずはこの理想の姿勢でいることが自分にとって自然であるというところまで取り組んでみようと思いました。

現在、清水広貴選手は弊社代表が野手コーチを務める、『グランドプレーリー・エアホックス』に帯同しております。

鍼灸の資格を持っている清水広貴選手は医療現場で働いていた経験から、アルパイン・カウボーイズでも選手のマッサージやケアに積極的に関わっていたそうです。選手としてはもちろんですが、その先の自分の治療家というもう一つの目標へ向かっても同時進行で経験を積むことができる。

時代が進み、働き方も変わりつつある現代でこういうチャレンジの仕方があってもいいと考えます。若い選手とは異なる一つ踏み込んだ目的を持って海外でチャレンジする清水広貴選手を、弊社はこれからも全力でサポートして参ります！！

